

有機農業をめぐる事情

参考資料編（事例・データ）

令和7年10月
農林水産省
農産局農業環境対策課

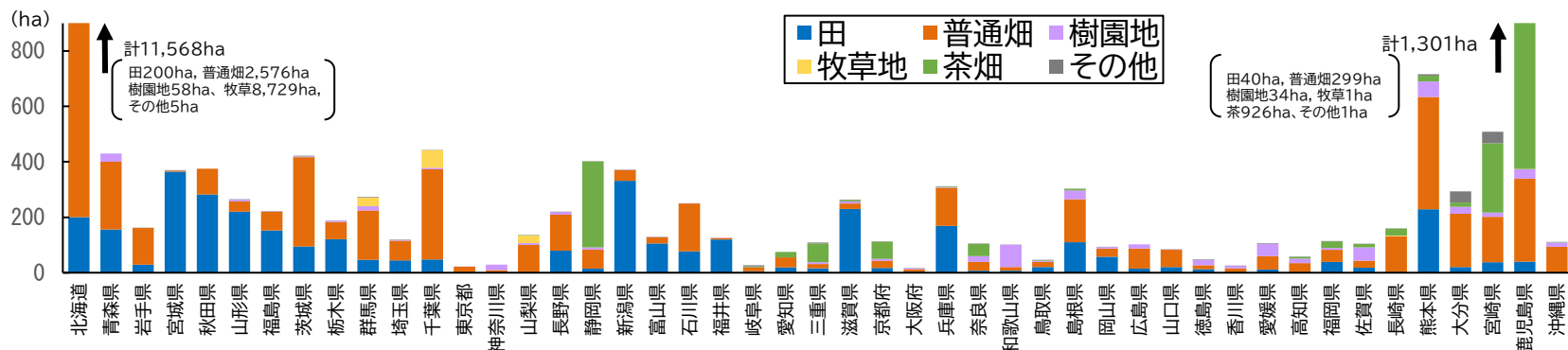
目次（参考資料編）

有機JAS認証取得農地面積と割合	3
有機農産物の価格の状況	4
有機農業に取り組む生産者の意識と課題	5
有機農産物の流通・加工業者の意識	6
オーガニックビレッジ全国集会について	7
オーガニックビレッジ取組市町村における学校給食に関する取組状況（令和7年度）	8
学校給食における有機農産物の導入の取組事例①	9
学校給食における有機農産物の導入の取組事例②	10
有機農業の教育機関等の事例	11
有機農業の技術の開発	12
有機加工食品事業者の取組事例	13
民間の外食・中食事業者の取組事例①	14
民間の外食・中食事業者の取組事例②	15
民間の外食・中食事業者の取組事例③	16
“有機JAS認証等取得等支援事業”の事例	17
有機酒類に関する取組について①（有機酒類の同等性、事業者の取組事例）	18
有機酒類に関する取組について②（有機酒類の同等性、事業者の取組事例）	19
都道府県における取組 ①産地づくり・技術開発・就農相談	20
都道府県における取組 ②マッチング・消費者理解醸成	21
民間における取組	22
有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク	23
有機農業の取組面積が耕地面積に占める割合が高い市町村	24
有機農業の取組面積が大きい市町村	25
有機農業推進の取組事例集	26

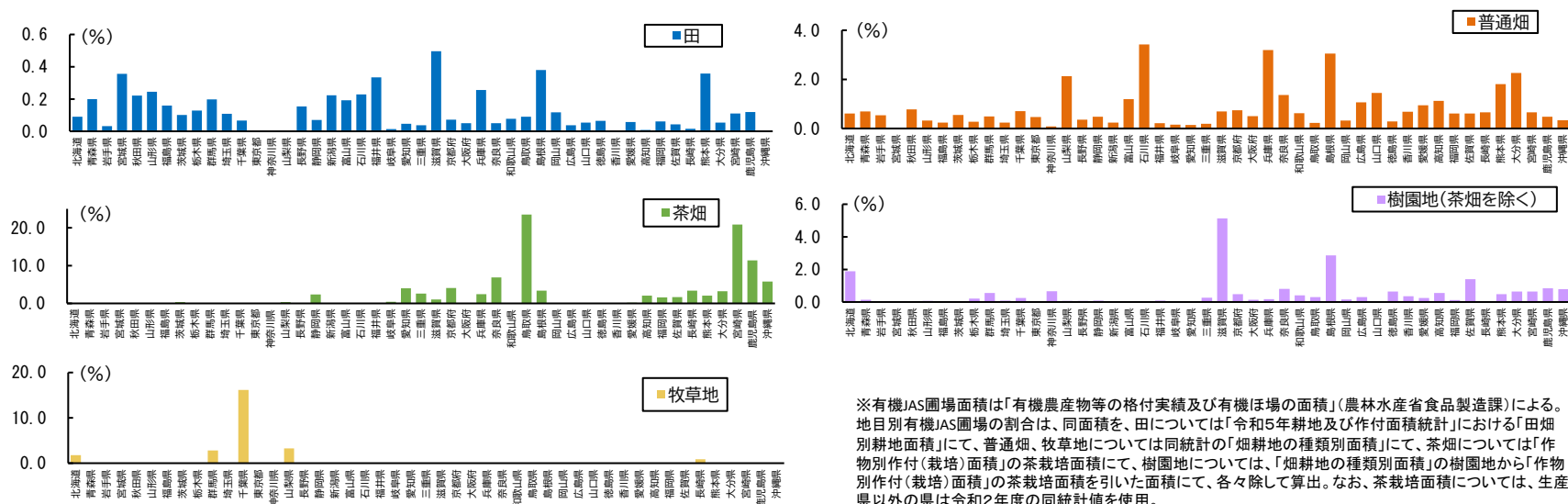
有機JAS認証取得農地面積と割合

- 令和5年度時点で、有機JAS圃場の53%が北海道に、6%が鹿児島県に、3%が熊本県に存在。
- 東北・北陸地域は水田が多く、九州は普通畑と茶畑が、関東は普通畑が多い傾向。
- 水田に占める有機JAS圃場の割合は0.5%未満だが、普通畑では3%を超える県があり、茶や牧草地では一部の県で栽培面積の1割以上が有機JAS圃場となっている。

■都道府県別の地目別有機JAS圃場面積(R5年度)



■都道府県別の地目別有機JAS圃場の割合(R5年度)



※有機JAS圃場面積は「有機農産物等の格付実績及び有機ほ場の面積」(農林水産省食品製造課)による。地目別有機JAS圃場の割合は、同面積を、田については「令和5年耕地及び作付面積統計」における「田畑別耕地面積」にて、普通畑、牧草地については同統計の「畑耕地の種類別面積」にて、茶畑については「作物別作付(栽培)面積」の茶栽培面積にて、樹園地については、「畑耕地の種類別面積」の樹園地から「作物別作付(栽培)面積」の茶栽培面積を引いた面積にて、各々除して算出。なお、茶栽培面積については、生産県以外の県は令和2年度の同統計値を使用。

有機農産物の価格の状況

- 有機栽培品（有機JASマークを貼付）は、国産標準品（慣行栽培品全体）より高価格帯で取り引きされており、一定の付加価値が市場に認められている。
- 生産者の約65%は有機農産物等の販売価格について満足している。
- 流通加工業者や消費者では、1割高まででの価格を希望する者が過半。標準品から4～5割高以上の価格での取り扱いを希望する者は1割未満の状況。

有機栽培品と国産標準品の販売価格比較（H28）

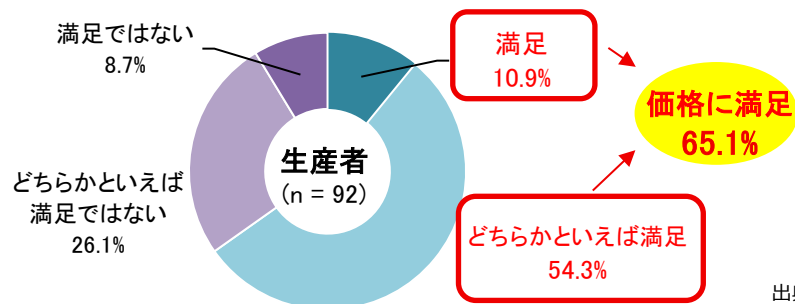
品目	国産標準品 (円/kg)	有機栽培品 (円/kg)	比率(%)
根菜類			
だいこん	204	315	155
にんじん	394	685	174
ばれいしょ	385	568	147
葉茎菜類			
キャベツ	178	291	163
ねぎ	669	960	143
たまねぎ	296	536	181
果菜類			
トマト	697	1,078	155
ピーマン	959	1,793	187

資料：農林水産省大臣官房統計部「平成28年生鮮野菜価格動向調査報告」（平成29年3月）

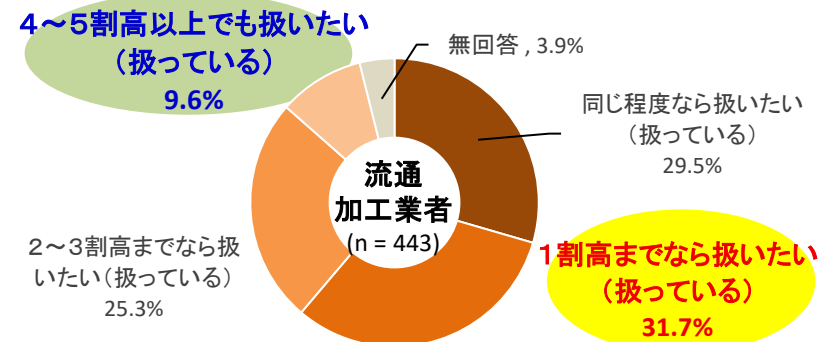
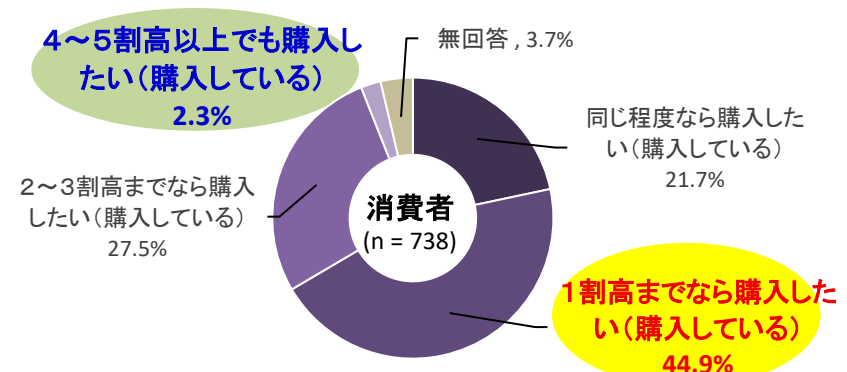
注）1．全国主要都市（21都市）の並列販売店舗における比較である。

2．有機栽培品は、有機JASマークを貼付した商品が該当する。

生産者の有機農産物等の販売価格への満足度



流通加工業者と消費者の有機農産物等を購入する場合の価格

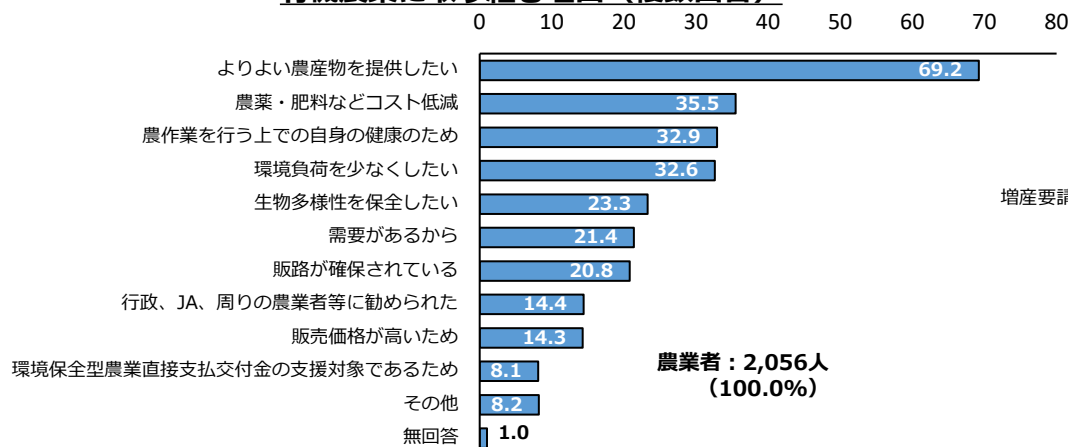


出典：H27年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国調査
「有機農業を含む環境に配慮した農産物に関する意識・意向調査」（平成28年2月）

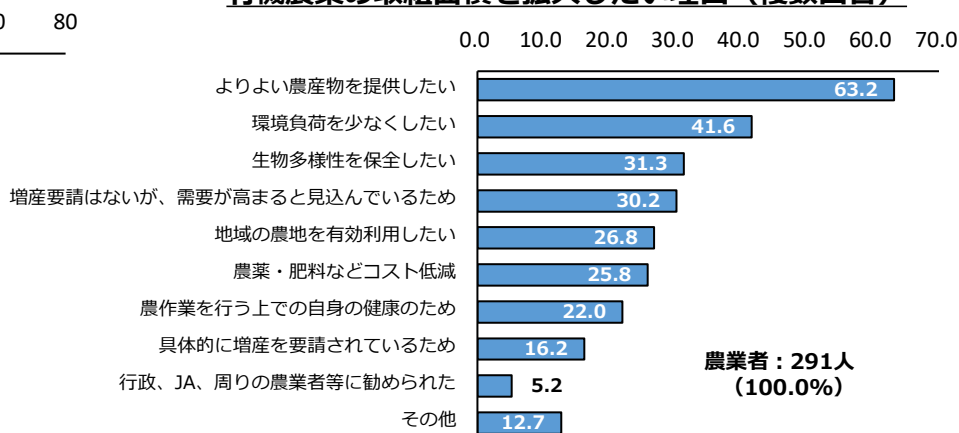
有機農業に取り組む生産者の意識と課題

- 生産者が有機農業に取り組む理由は、「よりよい農産物を提供したい」が約7割で最も高く、次いで「農薬・肥料などのコスト低減」、「農作業を行う上での自身の健康のため」、「環境負荷を少なくしたい」の順でそれぞれ3割強程度であった。
- 今後の有機農業の取組面積については、「現状維持」が約7割と最も高く、「拡大したい」「縮小したい」はそれぞれ1割程度であった。拡大したい理由としては、「より良い農産物を提供したい」が最大で、次いで「環境負荷を少なくしたい」が多く、農産物への付加価値や環境負荷の低減の観点に関する割合が高い。
- 有機農業を行っている者が取組面積を縮小する際の理由は、「人手が足りない」が最大で、次いで「栽培管理や手間がかかる」が多く、販路開拓の課題よりも生産における人手や手間に関する割合が高い。

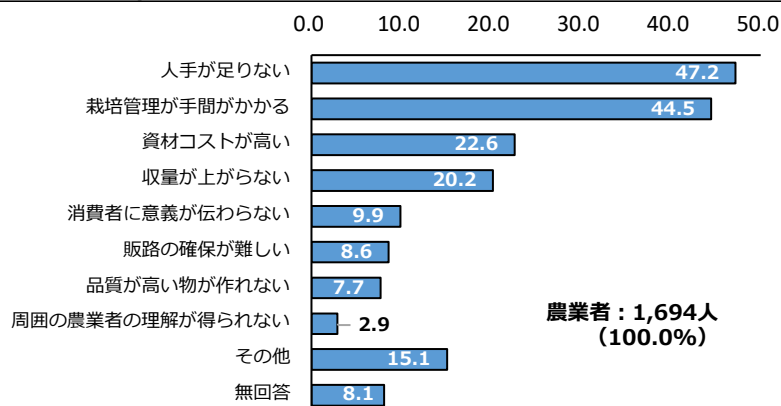
有機農業に取り組む理由（複数回答）



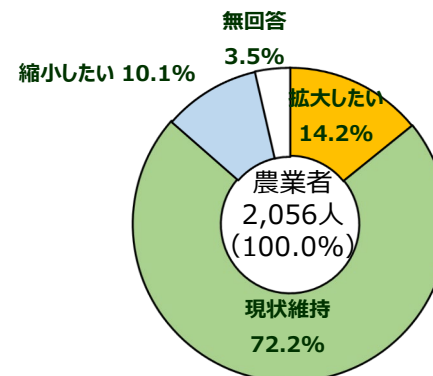
有機農業の取組面積を拡大したい理由（複数回答）



有機農業の取組面積を縮小したい又は現状維持の理由（複数回答）



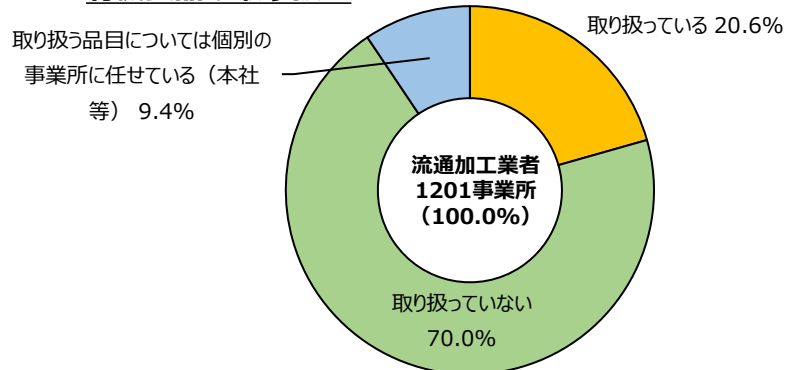
今後の有機農業の取組面積について



有機農産物の流通・加工業者の意識

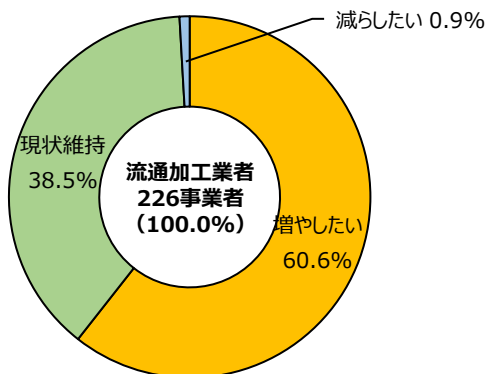
- 農産物を扱う流通加工業者の約2割は、有機農業で生産された農産物を取り扱っている。
- すでに国産有機農産物、国産有機加工品といった国産有機食品を取り扱っている事業所において、今後の国産有機食品の取り扱いについては、「増やしたい」と回答した割合が60.6%で、「現状維持」も含めると99.1%となる。
- 今後の国産有機食品の取り扱い量を増やしたい事業所において、その理由については、「品質がいい」と回答した割合が58.4%と最も高く、次いで「国内農業支持をアピールできる」、「環境への配慮をアピールできる」の順でいずれも50%弱であった。

有機食品の取り扱い



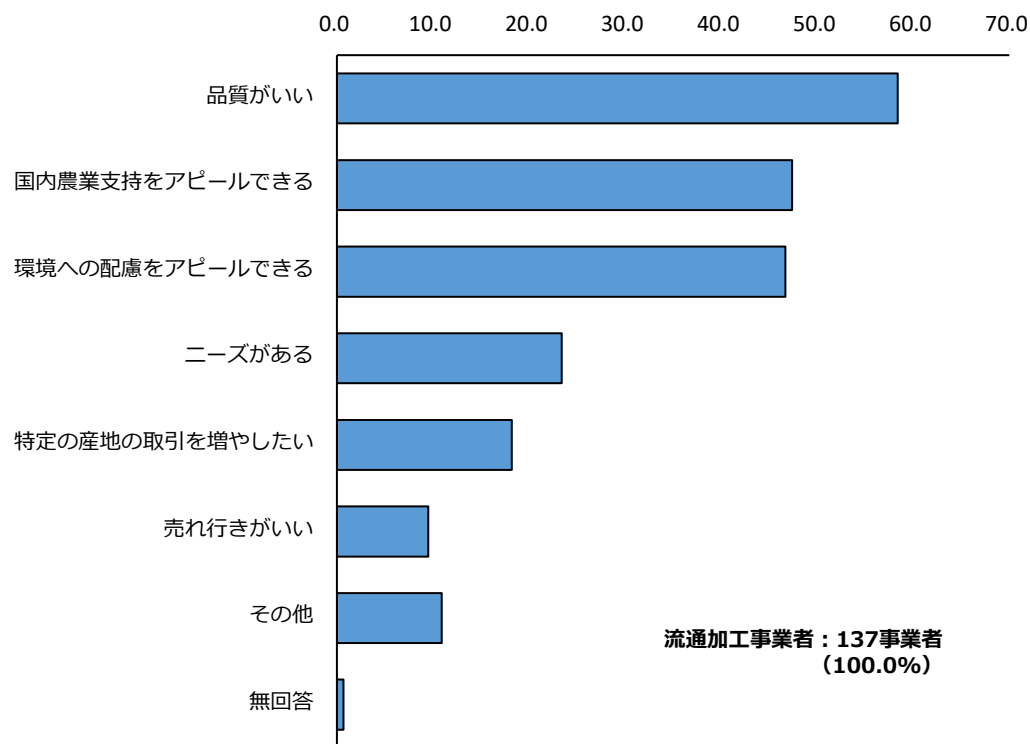
今後の国産有機食品の取り扱い

（国産有機食品を取り扱っている事業者の回答）



国産有機食品の取り扱い量を増やしたい理由（複数回答）

（国産有機食品の取り扱いを増やしたいと回答した事業者の回答）



オーガニックビレッジ全国集会について

- みどりの食料システム戦略で掲げる有機農業の拡大目標の実現に向けて、市町村主導で有機農業の拡大を実践する「オーガニックビレッジ」を創出。
- 本年1月、オーガニックビレッジの首長を始め、有機農業者や実需者等の関係者が一堂に会するイベント「全国集会」を開催し、約800名が参加。
- 全国集会では、オーガニックに取り組む市町村や、有機農産物の流通に取り組む事業者等から、先進的な取組について、経緯や創意工夫等の観点から報告。

【全国集会の様子】



会場の様子



オーガニックビレッジの報告
(北海道旭川市 今津市長)



農林水産省からの挨拶



流通事業者の講演
(株) アイモバイル 加藤執行役員)

日 時：令和7年1月16日（木）

講演者：

市町村

- ・北海道旭川市
- ・宮城県大崎市
- ・茨城県常陸大宮市
- ・富山県南砺市
- ・宮崎県綾町

流通等事業者

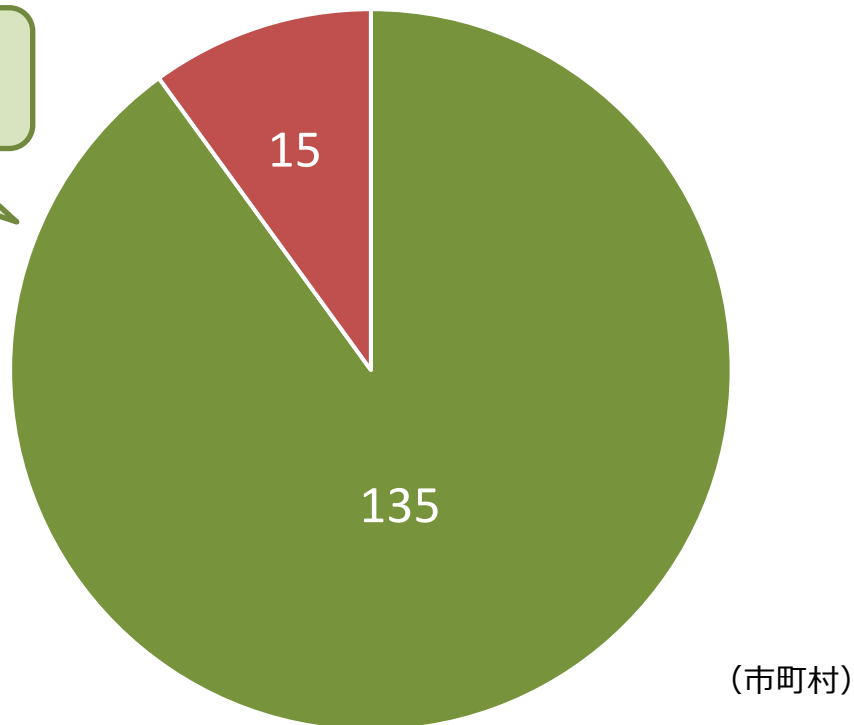
- ・イオントップバリュ株式会社
- ・株式会社雨風太陽
(ECサイト「ポケットマルシェ」運営)
- ・株式会社アイモバイル
(ふるさと納税サイト「ふるなび」運営)
- ・一般社団法人次代の農と食をつくる会

オーガニックビレッジ取組市町村における学校給食に関する取組状況（令和7年度）

- 令和4年度以降、オーガニックビレッジの取組を開始した150市町村のうち、9割の135市町村において学校給食に関する取組を実施するなど、各地で有機食品の活用取組が拡大。

**9割のオーガニックビレッジで
給食の取組を実施**

※計画ベースの取組を含む



- 学校給食で有機食品を利用している又は学校給食に関する取組に関する計画がある
- 学校給食で有機食品を利用しておらず、学校給食に関する取組に関する計画がない

学校給食における有機農産物の導入の取組事例①

千葉県木更津市

- 令和元年度から「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」を開始し、木更津市産の有機コシヒカリを学校給食に提供。
- 給食での有機米の利用割合を拡大させており、令和8年度には学校で提供する米を全量有機米とする目標。
(慣行農産物との差額は一般財源で措置)

【有機米の提供割合※】

R元： 2% (年3日) ⇒ R4: 53% (年71日)
⇒ R5: 62% (年83日)

※米飯給食を実施した日数に対する有機米を提供した日数の割合



有機コシヒカリを
「きさらづ学校給食米」
として商標登録



有機農産物を使用した給食例

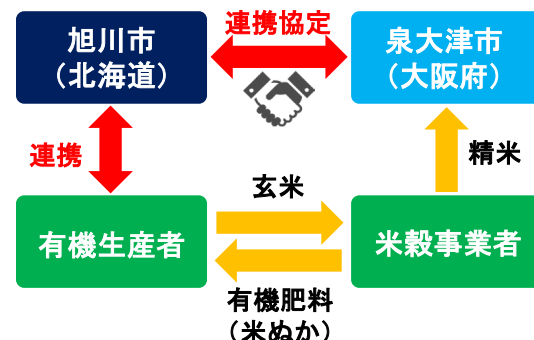
大阪府泉大津市 × 北海道旭川市

- 令和4年度から泉大津市は「ときめき給食」として他地域からの有機食材を給食に提供する取組を実施。
- 令和5年8月、泉大津市と旭川市の間で有機農産物の供給等に係る連携協定を締結※。
令和5年度に旭川市産有機JAS米「ゆめぴりか」を約20t購入し、令和6年7月から学校給食にて提供。

※ 令和5年3月、泉大津市は「安全・安心な食糧の安定的確保に関する構想」を策定し、生産地と消費地の“共存共生”の考えに立ち、互いの課題解決に向けた独自の食のサプライチェーン構築を進めている。



有機農産物を使用した
給食の様子



有機農作物を使用した給食
の両市の目指す姿

学校給食における有機農産物の導入の取組事例②

長野県松川町

- 令和2年から、「ゆうき給食とどけ隊」による学校給食への有機農産物の提供に取り組み、オーガニックビレッジでさらに拡大。
- 有機米のほか、町内で生産された有機のジャガイモ、ニンジン、タマネギ、長ネギ等を使用。令和4年度は週3回程度、有機農産物を使用。（生じる差額は補助金を活用。令和5年10月からは給食費を無償化。）

※令和5年度、学校給食への提供はジャガイモ・玉ねぎが不作なため減少したが、慣行からの移行によるお米200kgの提供と保育園への野菜の提供を開始。

【有機農産物の提供量】

R2 : 1.8t ⇒ R4 : 6.4t ⇒ R5 : 5.8t※

（R4年度は、有機米で全体の約2割を提供したほか、ジャガイモ、ニンジン等の主要な野菜の約3割を提供）



ゆうき給食とどけ隊



有機農産物を使用した給食例

熊本県山都町

- 平成16年から取組を開始し、有機米、ジャガイモ、ニンジン、タマネギ、サトイモのほか、コマツナ、ホウレンソウ等を使用。（生じる差額は、有機米については町が支援するほか、野菜については給食費の中で調整）
- 生産者が学校を訪問し、児童と一緒に給食を食べる交流活動を実施するほか、学校給食調理師等を対象とした有機農業の勉強会を開催。

【有機米の提供量】

R4 : 7.1t ⇒ R5 : 6.7t※ ※生徒の減少により、提供量が減少

（小中学校9校中6校で全量を有機米で提供）

※有機野菜は学校別に調達



生産者と児童の交流活動の様子



有機農産物を使用した給食例

有機農業の教育機関等の事例

鶴岡市立農業経営者育成学校
SEADS (山形県鶴岡市) R2~

有機農業をはじめ持続可能な農業の技術や、営農計画の策定、販路の開拓など経営に必要な事項を座学と実習を通して学べる。



NPO法人民間稲作研究所
(栃木県上三川町) H9~

低コストで効率よく生産できる有機稲作の技術体系を学べる。

群馬県立農林大学校
(群馬県) R6~

就農準備校に有機農業コースを、1年制の社会人コースに有機農業専攻を開設し、有機農業での実習を実施。



埼玉県農業大学校
(埼玉県) H27~

有機農業専攻において有機農業の基礎である堆肥づくりや栽培技術について、実習等で学べる。



はたけの学校【テラこや】
(神奈川県平塚市、オンライン) H30~

土壌、植物生理、病害虫等に関する動画講義、質問会、畑体験講座で体系的に有機農業を学べる。



自然農法大学校
(静岡県伊豆の国市) H2~

農業者、農業技術普及員を志す方向けに野菜・水稻の自然農法を学べる。



とやま有機農業アカデミー
(富山県) R5~

有機農業の新規栽培者等を対象に、県内の有機農業の先駆者から、栽培に関する講義と実践的な作業を学べる。



自然農法国際研究開発センター
(長野県松本市) S60~

有機栽培(稲作、野菜作、家庭菜園、自家採種等の分野別)の講座及び技術指導を実施。



島根県立農林大学校
(島根県) H24~

有機農業専攻において、水稻・野菜の育苗から収穫までの有機栽培の基本技術を学べる。



とくしま有機農業サポートセンター
(徳島県小松島市) H21~

BLOF理論に基づく土づくりと栽培の基礎を座学と実践で学べる。



アグリガーデンスクール&アカデミー
(福岡県、オンライン) H26~

BLOF理論をもとに土壌分析と施肥設計を実践し収量や機能性を高める農業スキルを身に付ける。



有機の学校 ORGANIC SMILE
(熊本県山都町) R4~

BLOF理論や農業経営について、毎月2日間実践的に学び、即戦力の有機農業者を目指す。



綾オーガニックスクール
(宮崎県綾町) R5~

農家や行政職員から有機農業技術を学べるのに加え、ブランディング戦略やマーケティング手法など有機農業のノウハウを習得できる。



アグリーノベーション大学校
(関東・関西、オンライン) H26~

社会人向けに、有機農業の原理原則を軸とした農業技術、就農に必要な知識、農業経営に関する知識を学べる。




亀岡オーガニック農業スクール
(京都府亀岡市) R6~

栽培技術を支える知識と農家での研修や実習圃場での経験、データを活用した新しい方法を学べる。



ジャパンバイオフィーム・日本有機農業普及協会
(長野県伊那市) H12~

BLOF理論に関する研究や人材育成、資材の販売等を行い、有機農産物が普及する社会を実現。



丹波市立農の学校
(兵庫県丹波市) R1~

畑で有機農業の技術を、座学で経営を学び、受講生自ら出荷販売する実践型カリキュラムを実施。



有機農業の技術の開発

- 食料安全保障の強化や、農業の生産力向上と持続性の両立を目指す「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、化学農薬や化学肥料の使用量を削減し、有機農業を面的に推進するための技術開発は重要。
- このため、（国研）農業・食品産業技術総合研究機構が他機関と連携して、有機農業推進に向けた研究プロジェクトを実施。
- 研究成果として、「深水管理による省力的な有機水稻栽培を実現する農地整備&栽培管理マニュアル」や、「省力除草、安定生産の水田有機栽培体系の実証と支援アプリケーションの開発」成果集を公表。

園芸作物における有機栽培に対応した 病害虫対策技術の構築

<研究概要>

園芸作物において有機農業への転換を進めるため、土壌太陽熱養生処理（※）による土壌病害抑制効果の検証、国産天敵製剤等の開発

土壌太陽熱養生処理
の効果検証



※土壌太陽熱養生処理：
太陽の熱と微生物の発酵熱により土壌を高温にし、雑草の種や病原菌を駆除する技術

国産天敵製剤の開発

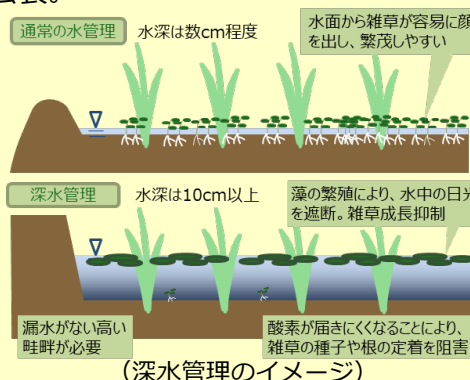


事業名：みどりの食料システム戦略実現技術
開発・実証事業のうち農林水産研究
の推進（現場ニーズ対応型研究）
研究期間：令和5年度～令和7年度
研究機関：農研機構（代表）、
（株）ジャパンバイオファーム、
石原産業（株）、日本曹達（株）、
（株）微生物化学研究所、鹿児島県 等

有機農業推進のための深水管理による 省力的な雑草抑制技術の開発

<研究概要>

有機水稻栽培において雑草抑制に有効な深水管理を行う際に必要となる、畦畔整備技術や効率的な機械除草技術等について開発。2025年に「深水管理による省力的な有機水稻栽培を実現する農地整備&栽培管理マニュアル」を公表。



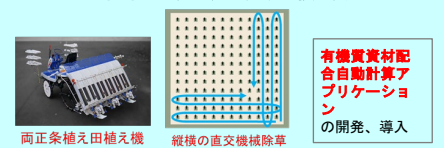
事業名：みどりの食料システム戦略実現技術
開発・実証事業のうち農林水産研究
の推進（現場ニーズ対応型研究）
研究期間：令和4年度～令和6年度
研究機関：農研機構（代表）、秋田県、島根県、
宮城大学、秋田県立大学、
（株）オプティム、三陽機器（株） 等

省力除草、安定生産の水田有機栽培体系 の実証と支援アプリケーションの開発

<研究概要>

縦横両方向に機械除草が可能となる両正条植え田植え機による除草時間削減効果の実証、肥培管理を支援するアプリケーションの開発。2025年に「省力除草、安定生産の水田有機栽培体系の実証と支援アプリケーションの開発」成果集を公表。

省力除草・安定生産に資する技術要素



技術の導入

東北地域・九州地域において、
効率的な有機栽培体系確立に向けた実証試験

事業名：戦略的スマート農業技術等の開発・
改良
研究期間：令和4年度～令和6年度
研究機関：農研機構（東北農研（代表）、
農機研、九州研、植防研）、
佐賀県農試

有機加工食品事業者の取組事例

株式会社フレッシュフーズ（北海道札幌市）

《取組の特徴》

- ・ 有機カット野菜を製造し、主に北海道で販売。
- ・ 新たに首都圏での販売を開始するため、みどり法に基づく基盤確立事業実施計画の認定を受け、千葉県八街市に有機専用のカット野菜工場を整備。
（令和6年11月稼働開始）

《取組のポイント》

- 使用する品目を加工しやすい品目（キャベツ、大根、ニンジン等）に限定する等の工夫により、製造コストの低減を図ることで、消費者の購入しやすい価格での販売を実現。
- 規格外の有機野菜や、徹底した温度管理により、新鮮なカット野菜サラダを流通させることで、有機農産物の消費拡大に貢献。
- 工場の整備に当たっては、基盤確立事業認定のメリット措置である食品流通改善資金の貸付を活用。
- 今後は、首都圏での更なる販売拡大に向け、販路開拓を進めるとともに、契約生産者向けのプラットフォームを構築し、製品の安定供給や品質向上に取り組む予定。



有機カット野菜工場
（千葉県八街市）



有機キャベツサラダ

イシハラフーズ株式会社（宮崎県都城市）

《取組の特徴》

- ・ 令和4年度にハウレンソウで有機JASを取得し、有機冷凍ハウレンソウの施設も整備。
- ・ 自社で土壌分析や残留農薬検査を実施するなど、GAPに取り組む。

《取組のポイント》

- 従来から冷凍加工野菜原料のほぼ全量を自社圃場で周年生産しており、令和4年からはハウレンソウ 5haで有機JAS認証を取得したほか、有機加工食品の有機JAS認証も取得。
（経営面積：経営面積 約270 ha うち有機 5ha
（年間作付け480 ha）
品目：ハウレンソウ、小松菜、里芋、枝豆、大根等）
- 冷凍加工設備の整備には、令和4年度に産地生産基盤パワーアップ事業（収益性向上対策・整備事業）を活用。
- 令和2年にJGAP認証を取得。GAPの取組として、自社で土壌分析の検査室や残留農薬検査センターを設置するほか、フィールドマン（圃場観察専門作業員）による圃場の一元管理を実施。（令和4年度未来につながる持続可能な農業推進コンクールGAP部門農林水産大臣賞受賞）



イシハラフーズ（株）



オーガニックほうれんそう

民間の外食・中食事業者の取組事例①

株式会社SANKO MARKETING FOODS (東京都新宿区)

《取組概要》

- ・ 農林水産省食堂「あふ食堂」の受託を契機に有機農産物の提供を開始。「あふ食堂」では周年で有機農産物を提供しており、年間約4tの有機農産物を提供。
- ・ 他省庁で受託している食堂においてもスポット的に有機農産物を提供。

《取組のポイント》

- 使用品目：
葉物類、根菜類等（ほぼ全て有機JAS認証を取得）
- 仕入れ先：仲卸業者からの仕入れ、一部産地から直接仕入れ
- 農林水産省のほか、他省庁の食堂も受託しており、一部の省庁の食堂においても、イベント時などに有機農産物をスポットで提供。
- 有機農産物の提供のほか、水産物、ジビエ、農福連携等の農林水産省の各種施策や、全国の都道府県とのコラボフェアの開催を通じて、食材の付加価値を高めてPRし、生産者の取組を応援する企画を随時実施。



有機食品を使用したメニュー例



使用している
有機野菜の店頭掲示

ワタミ株式会社 (東京都大田区)

《取組概要》

- ・ 子会社である（有）ワタミファームは、全国で合計530haの有機ほ場を管理しており、生産された有機農産物の一部を、外食事業や宅食事業で使用。
- ・ また、有機加工食品の原材料としても使用しており、有機加工食品を「ワタミオーガニック」として一般向けにも販売するほか、外食事業でも提供。

《取組のポイント》

- 使用品目：
きくいも茶、レタス、ロメインレタス等（全て有機JAS認証を取得）
- 仕入れ先：（有）ワタミファーム（子会社）、契約生産者から仕入れ
- 居酒屋事業において、あがりのお茶として、有機きくいも茶を周年で提供。また、季節の限定メニューにおいて、スポット的に有機農産物を使用したメニューを提供（メニューは店舗による）。
- 令和3年には岩手県陸前高田市に、有機農産物の収穫体験などが出来る観光農園と一体になったテーマパーク「ワタミオーガニックランド」を開設。



有機レタスほ場の様子（東御農場）



有機きくいもを使用した
有機加工食品

民間の外食・中食事業者の取組事例②

協同組合高岡総合給食センター（富山県高岡市）

《取組概要》

- 令和6年11月に高岡市内の幼稚園で、食材として使用する野菜を全て有機農産物にした給食の提供を初めて実施。
- 今後も有機農産物の利用の取組を、年に数回程度実施していく意向。

《取組のポイント》

- 使用品目：
カブ、ハクサイ、カリフラワー、ニンジン、ばれいしょ、タマネギ（いずれも有機JAS認証を取得していない）
- 仕入れ先：地域の農家から直接仕入れ
- 今回は予定していた有機野菜の収穫が思わしくなく、急遽、他の品目で代用。適時に必要な有機野菜を手に入れることが課題。今後の取組では、手に入れやすい慣行品も活用することで栄養バランスの良い献立を提供。



生産者が直接
園児の保護者に説明



親子で野菜について
会話しながらの食事風景



使用した有機野菜



有機野菜を使用した
ホワイトシチュー

株式会社富喜屋（大阪府高槻市・東京都千代田区）

《取組概要》

- 自社サービスの広報・ブランド化のため、平成29年から都内の保育園（自園給食）において、毎月1回、有機農産物を使用した「オーガニック給食」を提供。現在、東京都・神奈川県 of 保育園・こども園3ヶ園で実施。
- 今後は、「オーガニック給食」を園児募集のための魅力づくりのひとつとして提案し、実施園を増やしていく意向。

《取組のポイント》

- 使用品目：
キャベツ、タマネギ、ニンジン、ばれいしょ、ブロッコリー、ハウレンソウ、インゲン
(いずれも有機JAS認証を取得)
- 仕入れ先：(株)クレヨンハウス
- 有機農産物は慣行品に比べて流通量が少ないため、万が一使用予定の有機野菜が入荷されなかった場合には、献立を変更する等、柔軟に対応。保護者に対しても、献立・材料変更の可能性がある旨を事前に案内することで、理解を求めている。



クレヨンハウスと
連携した取組



「オーガニック給食」の
メニュー例

民間の外食・中食事業者の取組事例③

NPO法人湘南食育ラボ（神奈川県藤沢市）



《取組概要》

- 平成25年11月から湘南学園にてカフェテリア事業を開始。事業開始時から宇都宮市産の有機農業で栽培された米をご飯メニューすべてに使用。
- 近隣の農家から仕入れた有機農業で栽培された野菜は湘南学園のカフェテリア限定でスポット使用し、年間1割程度使用。

《取組のポイント》

- 使用品目：
米（有機JAS認証を取得していない）
ばれいしょ、ニンジン、根菜類等（一部、有機JAS認証を取得）
- 仕入れ先：農家からの直接仕入れ
- 湘南学園では、普段からSDGsの学習をはじめとしたE S Dや食育に力を入れており、学園公式のインスタグラム等で食育情報を発信。また、地元プロサッカーチームとコラボして、地域の食を考えるイベントを開催。
- 令和6年度には、有機農業の日（12月8日）に合わせて農業と食の未来について考える取組として、有機野菜を使用したスペシャルメニューを提供。



有機農産物等を使用した
メニュー例



イベントの様子
(生産者も参加)

“有機JAS認証等取得等支援事業”の事例

各地の取組事例集はこちら▶

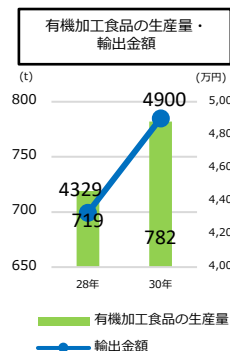


ヤマキ醸造株式会社（埼玉県神川町）

《取組の特徴》

- ・海外輸送に適した商品の試作
- ・現地輸入業者との商談等による販路拡大 等

《取組の成果》



《取組のポイント》

- ✓ 海外の方でも使いやすい味噌だれ等の商品開発に取り組み、試作品を各国のバイヤーに提供し好評価を得た。
- ✓ 輸出先の規制に適合する包材を作成し、有機JAS認証を取得予定。
- ✓ 30年度に、オーストラリア、フランス、ドイツ、デンマーク、ベルギー、オランダの現地輸入業者と商談。日本の食品輸出EXPO（幕張）にも出展。計235件の商談を行い販路を拡大。



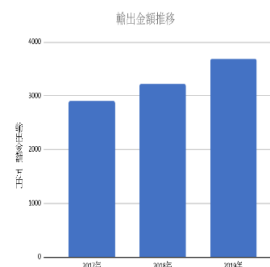
▲ 商談会の様子

光食品株式会社（徳島県板野郡上坂町）

《取組の特徴》

- ・海外需要にマッチした商品づくり
- ・ポン酢、しょうゆ、ソース等の有機JAS認証調味料の輸出拡大

《取組の成果》



《取組のポイント》

- ✓ 輸出向けの商談会に出展したり、現地に伺って直接海外バイヤーの要望や意見を伺うことにより、**需要にマッチした商品づくり**を行う。
- ✓ オーストラリア、イギリス、ベルギー、シンガポールの**現地輸入業者と商談**。有機ジンジャーHOTソース、有機ポン酢等の**有機調味料について大ロットでの輸出商談**が進行中



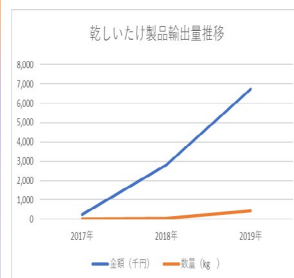
▲ 有機ジンジャーHOTソース

杉本商店有機出荷者協議会（宮崎県高千穂町）

《取組の特徴》

- ・海外需要を踏まえたビーガン嗜好者向けの有機JAS認証取得
- ・有機認証乾しいたけの輸出拡大に向けた取組 等

《取組の成果》



《取組のポイント》

- ✓ 海外における実需者の意向調査を行った結果、ビーガン嗜好者向けの需要が見込めたため、新たに**有機JAS認証を取得**。
- ✓ 有機認証乾しいたけの輸出拡大のため、国内外の展示会に積極的に参加、2年間で**輸出額を10倍以上に拡大**。



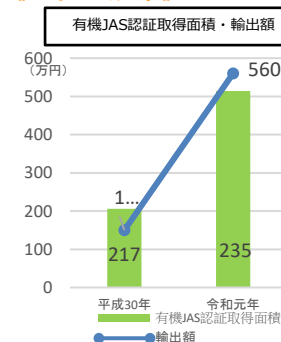
▲ 展示会への出展

有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県鹿児島市）

《取組の特徴》

- ・県産有機農産物の輸出拡大
- ・冷凍焼き芋、オーガニックベビーフード等の輸出向け商品開発 等

《取組の成果》



《取組のポイント》

- ✓ 国内外問わず商談会に積極的に参加、新たに需要を拡大し**香港向けに20品目の農産物の輸出に成功**
- ✓ 海外での需要を見据え、**冷凍焼き芋、オーガニックベビーフード等の輸出向け商品を開発**。

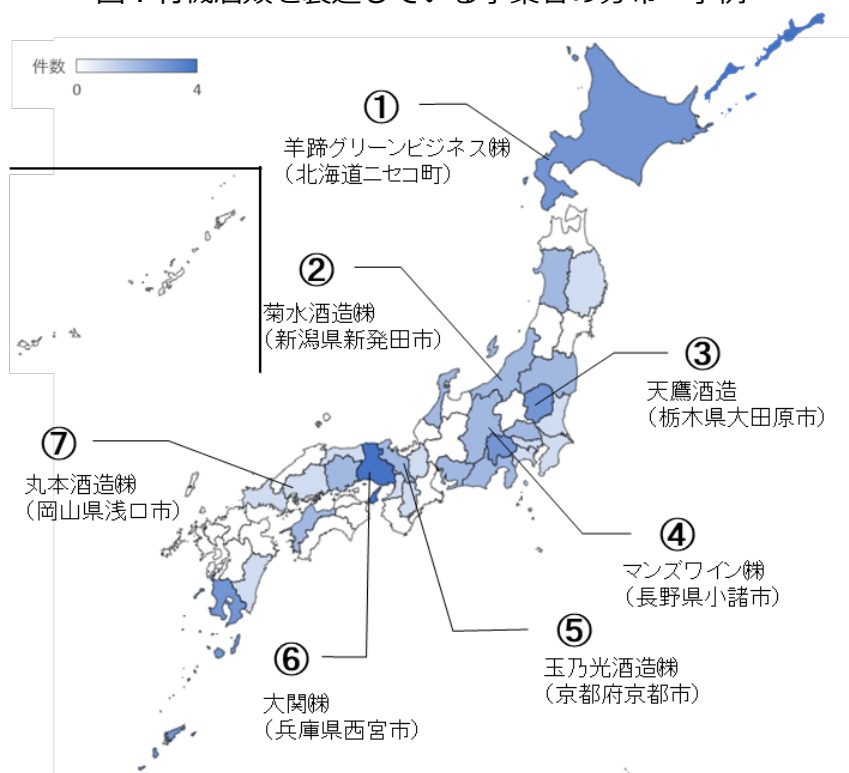


▲ 中東向け需要開拓に向けた商談会の様子

有機酒類に関する取組について①(有機酒類の同等性、事業者の取組事例)

- 令和4年10月に改正JAS法が施行されたことに伴い、有機加工品JAS有機酒類が追加されたところ、これまでに国内で56の製造事業者（令和7年3月時点）が有機酒類に係るJASの認証を取得。
- 他国との有機酒類の同等性については、これまでに台湾及びカナダのほか、令和7年5月にEU加盟国との間でも同等性が発効された。米国、英国等と引き続き交渉中。
- 認証取得済み事業者のうち製造量や原料確保に特徴のある7社に対して取組状況等に関するヒアリングを実施（※）したところ、概ね生産を拡大する意向であり、輸出向けの有機日本酒の取組も拡大傾向であった。 ※令和5年11月実施

図：有機酒類を製造している事業者の分布・事例



① 羊蹄グリーンビジネス株式会社（北海道ニセコ町）

製 品：有機スパークリングワイン
 製造量：2,000L～
 販売先：直販、レストラン等
 輸出先：－
 今後の取組方針：
 ・引き合いも強く、設備の生産能力を6,000Lまで拡大するなど、今後増産を図っていく方針。



② 菊水酒造株式会社（新潟県新発田市）

製 品：有機日本酒
 製造量：2,500L
 販売先：小売店、道の駅等
 輸出先：アメリカ
 今後の取組方針：
 ・有機日本酒の販売は海外向けが2/3を占める。製造については、有機的な管理の難しさなどの為、現状維持。



有機酒類に関する取組について②(有機酒類の同等性、事業者の取組事例)

③ 天鷹酒造(栃木県大田原市)

製 品：有機日本酒
製造量：16,000L
販売先：主にECサイト
輸出先：アメリカ、EU、韓国

今後の取組方針：

- ・自社で生産した有機米も使用した環境にやさしい酒造りを実践。現状では全体の1割ほどで、今後、全量有機を目指し、製造・輸出の拡大を図っていく方針。



⑥ 大関(株)(兵庫県西宮市)

製 品：有機日本酒
製造量：—
販売先：生協、オーガニック系スーパー、ECサイト
輸出先：—
今後の取組方針：
・国内向けに有機日本酒の販売を拡大していく方針。(輸出についても、順次取り組み中)



④ マンズワイン(株)(長野県小諸市)

製 品：有機ワイン
製造量：460L
販売先：ECサイト、小売店、ワイナリー売店
輸出先：—

今後の取組方針：

- ・2010年から有機栽培に取り組んでおり、規模拡大中。認知度が向上すれば新しい販路も考えていく方針。



⑦ 丸本酒造(株)(岡山県浅口市)

製 品：有機日本酒
製造量：4,000L
販売先：特約店
輸出先：アメリカ、EU
今後の取組方針：
・全量自社栽培の有機米を使用した有機日本酒「竹林 Earth Science Bio」等5商品を販売。今後、輸出の拡大を図っていく方針。



※製造量は有機のみ(直近の1年)

⑤ 玉乃光酒造(株)(京都府京都市)

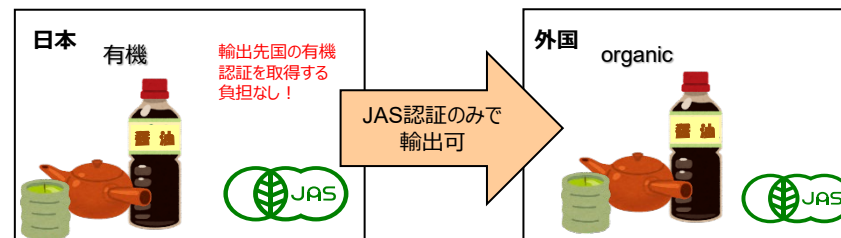
製 品：有機日本酒
製造量：19,950L
販売先：百貨店、高級スーパー、ECサイト
輸出先：アメリカ、EU

今後の取組方針：

- ・酒造好適米(山田錦、雄町)を使用した有機日本酒「有機純米吟醸GREEN」を販売。今後、欧州、北米を中心に拡販を図っていく方針。



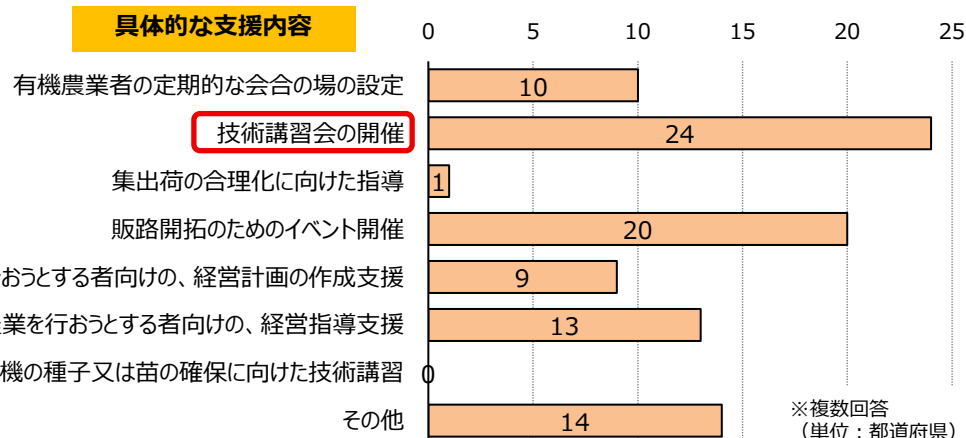
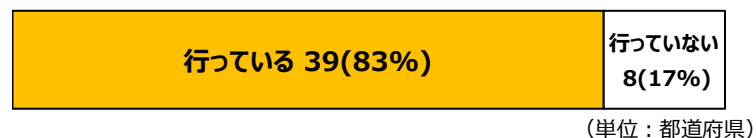
有機同等性が締結されている場合



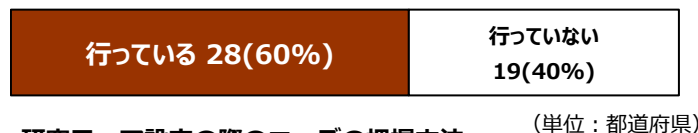
都道府県等における取組 ①産地づくり・技術開発・就農相談

- 有機農業の産地づくりに向けた支援を行っているのは39道府県で、取組内容は「技術講習会の開催」が最も多く、次いで「販路開拓のためのイベント開催」となっている。
- 有機農業に利用可能な技術開発を行っているのは28道県。また、13県では研究テーマ設定の際、現地調査、研修会での聞き取りを行っている。
- 都道府県における有機農業の就農相談先については、25道府県において県庁、42都道府県において県の出先機関に相談先を設けている。

有機農業の産地づくりに向けた支援



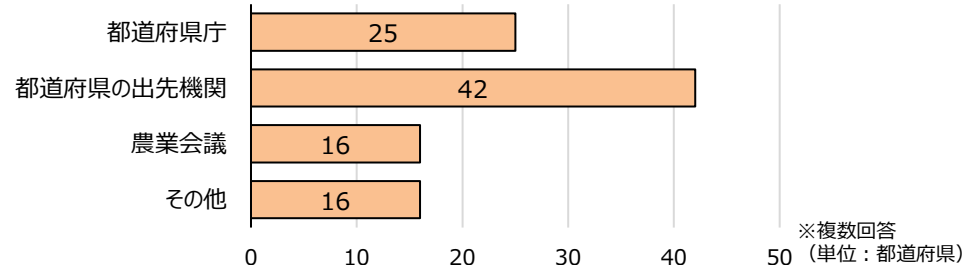
各都道府県における有機農業関連技術の開発状況



研究テーマ設定の際のニーズの把握方法



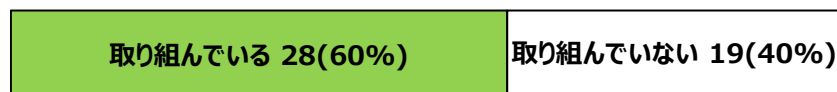
都道府県における有機農業の就農相談先



都道府県等における取組 ②マッチング・消費者理解醸成

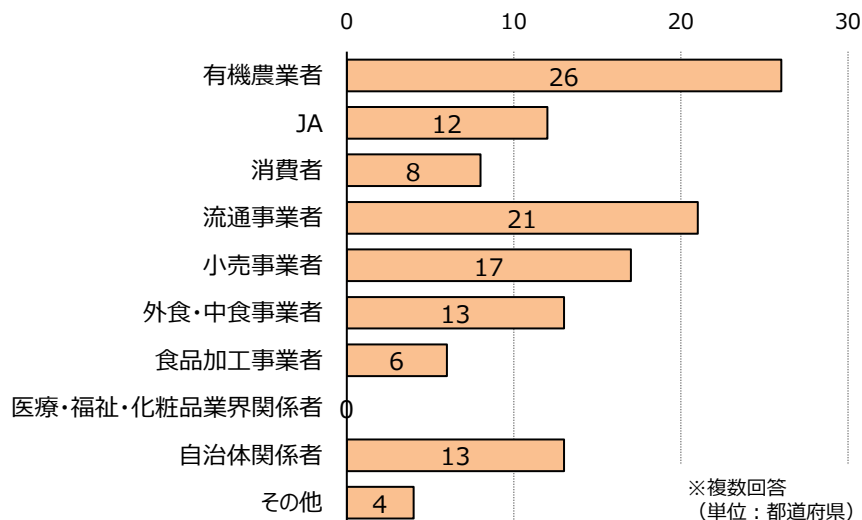
- 28道県で、有機農業者と消費者や実需者のマッチングのための取組を実施。商談会、産地見学会、意見交換会等が開催され、有機農業者やJAのほか、消費者、加工、流通、中食・外食、自治体関係者等の業界関係者が参加した。
- 39道府県で消費者への理解・関心を増進する取組が行われており、取組内容は、インターネットの活用による情報の受発信がもっとも多く挙げられている。

有機農業者と消費者との交流会や実需者とのマッチング

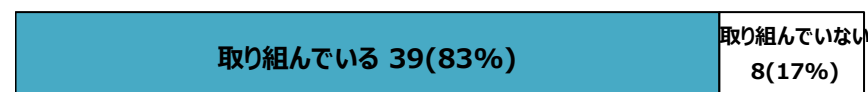


(単位：都道府県)

〈参加した業界関係者〉

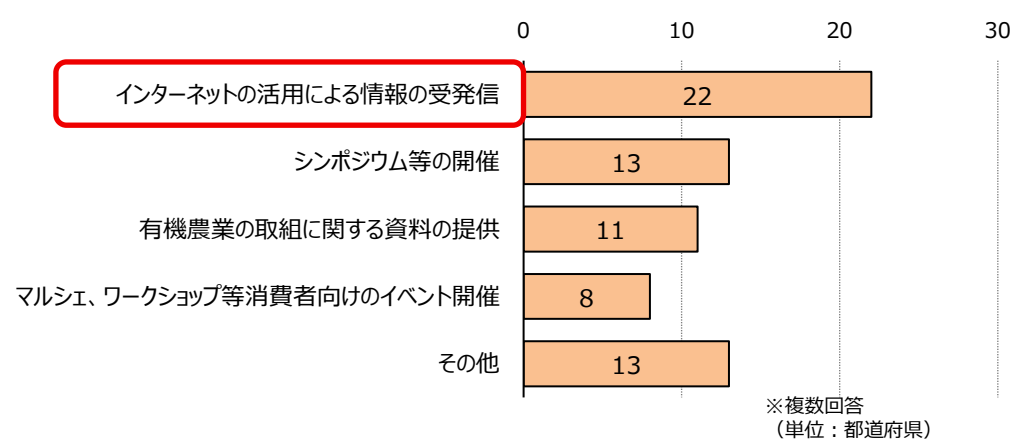


消費者への理解・関心を増進する取組



(単位：都道府県)

〈具体的な取組内容〉



出典：農業環境対策課「令和5年度における有機農業の推進状況調査（都道府県対象）」

国産有機加工原料の拡大に向けた取組 ～ 日本有機加工食品コンソーシアムの設立 ～

2023年4月、有機農産物の生産・加工・流通等の事業者からなる「（一社）日本有機加工食品コンソーシアム」が設立。

生産から消費までの事業者が連携し、原料の効率的な使用等の取組を推進することで、麦・大豆等の有機加工食品原料の生産拡大や国産有機加工食品の市場拡大を目指す。

今後、国産原料を使用した加工品（パン等）の生産拡大や、転換期間中有機農産物を原料とする加工食品に対する理解醸成・販売促進等の取組を実施予定。



有機食品の見本市開催の動き～ BIOFACH JAPAN開催 ～

1990年以来、ドイツのニュルンベルク市など世界各地で開催されているオーガニック食品の世界有数の見本市「BIOFACH（ビオファ）」が、2024年10月に日本で開催。

「GOOD LIFEフェア」（朝日新聞社主催）との合同開催で、国内外の有機食品事業者等がブースを設置し、取組内容や取扱商品等についてPRするほか、オーガニックビレッジ市町村が取組を紹介するブースを設け、有機の認知度向上、消費拡大に向けた情報発信を実施。

2025年は以下の日程で開催予定。

【会期】2025年9月26日（金）～28日（日）

【会場】東京ビッグサイト 西1・2ホール



有機農業と地域振興を考える自治体ネットワークについて

有機農業を生かして地域振興につなげている自治体や、これから取り組みたいと考える自治体、民間企業・民間団体の情報交換等の場として「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」を設置し、**自治体間の情報共有等を促進**

令和7年8月18日時点で146市町村24県8団体が参加

北海道	安平町 旭川市 新十津川町 赤井川村	埼玉県	小川町 所沢市 さいたま市 いすみ市	愛知県	富士宮市 伊豆の国市 静岡市 東郷町	鳥取県	日南町 浜田市 江津市 吉賀町
青森県	黒石市 五戸町 一関市 花巻市	千葉県	木更津市 山武市 匝瑳市 佐倉市		大府市 南知多町 美浜町 豊川市	岡山県	大田市 和気町 赤磐市 新庄村
岩手県	遠野市 登米市 大湯村 大館市		多古町 神崎町 相模原市 小田原市		武豊町 岡崎市 尾鷲市 名張市	広島県	東広島市 神石高原町 宇部市 長門市
宮城県	川西町 鶴岡市 米沢市 新庄市	神奈川県	新発田市 阿賀野市 五泉市 津南町	三重県	伊賀市 甲賀市 近江八幡市 日野町	山口県	小松島市 海陽町 今治市 馬路村
秋田県	高畠町 山形市 酒田市 磐梯町	新潟県	富山市 富山市 羽咋市 珠洲市	滋賀県	甲賀市 近江八幡市 日野町 堺市	徳島県	三豊市 うきは市 南島原市 五島市
山形県	磐梯町 二本松市 喜多方市 会津若松市	富山県	石川市 羽咋市 白山市 池田町	大阪府	京丹後市 京丹波市 丹波篠山市 丹波篠山市	熊本県	山都町 南阿蘇村 菊池市 臼杵市
福島県	常陸大宮市 笠間市 石岡市 かすみがうら市	石川県	松川町 飯田市 辰野町 飯綱町	京都府	養父市 淡路市 豊岡市 上郡町	大分県	佐伯市 豊後高田市 綾町 木城町
茨城県	水戸市 小山市 市貝町 塩谷町	福井県	伊那市 信濃町 白川町 飛騨市	兵庫県	朝来市 宇陀市 天理市 山添村	宮崎県	徳之島町
栃木県	宇都宮市 栃木市 高山村 甘楽町	山梨県	掛川市 掛川市 掛川市 掛川市		和歌山県 和歌山市 かつらぎ町		
群馬県	みなかみ町	長野県					

都道府県会員

青森県、秋田県、山形県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、滋賀県、兵庫県、和歌山県、岡山県、山口県、徳島県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

民間企業・民間団体会員

(一社)日本有機農業協会
井関農機(株)
(株)INGEN
ハイパーアグリ(株)
三菱マヒンドラ農機(株)
(株)大治
(株)ウタネ
(株)流通研究所

事例報告セミナーの開催状況

令和7年1月



オーガニックビレッジ全国集会の開催

オーガニックビレッジに取り組み市町村や有機農業産物の流通に取り組む事業者等から取組の紹介

市町村〔旭川市、大崎市、常陸大宮市、南砺市、綾町〕

民間企業・団体
イオントップバリュ(株)、(株)雨風太陽(ポケマルを運営)、(株)アイモバイル(ふるなびを運営)
(一社)次代の農と食をつくる会

令和7年7月

自治体セミナーの開催

オーガニックプロデューサーと連携した、特色ある自治体の取組事例紹介(遠野市、新発田市、相模原市)後、グループに分かれて自治体間の意見交換を行った。

【過去】

平成30年度 ○ネットワーク設立準備会合
全国6市町村の有機農業推進の取組事例の紹介・共有

令和元年

- 給食から広がる有機農業産地づくり
- 加工品・マーケティングセミナー
- 有機農業産物の販路拡大のための自治体のチャレンジ

令和2年

- 耕作放棄地を活用した有機農業の取組拡大
- 有機農業産物物流効率化セミナー2021
- 有機農業産物の学校給食での使用、ネットワーク化

令和3年

- 有機農業産物の地域での消費拡大、学校給食への導入等
- オーガニックライフスタイルEXPOで紹介
- 自治体による有機農業技術習得支援の取組、学校給食への有機食材導入の経過等

令和4年

- 有機農業の拡大に向けた地域ぐるみの取組、学校給食での試行的な利用、スマート機械の導入等
- オーガニックライフスタイルEXPOで紹介
- オーガニックビレッジ全国集会の開催

令和5年

- 有機農業産物の生産・利用拡大に向けた地域間の連携(オーガニックブリッジ)
- オーガニックライフスタイルEXPOで紹介
- オーガニックビレッジ全国集會

令和6年

- 「有機農業産物の販路拡大に向けて」をテーマとしたセミナーの開催
- オーガニックライフスタイルEXPO2024において、「有機農業の拡大に役立つ新しい技術について」をテーマとしたセミナーの開催



★随時受付★お問合せ先：農産局農産政策部農業環境対策課 (03-6744-2114) HP: <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/jichinet.html>

有機農業の取組面積が耕地面積に占める割合が高い市町村

※令和6年度に実施した「令和5年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」において、一定程度、有機農業の取組面積を把握していると回答した960市町村のうち、公表について「可」との回答があった市町村のみを掲載。

	市町村	有機農業の 取組面積 (ha)	耕地面積に 占める割合	主に作付けされている 品目
1	馬路村（高知県）	52	83.9%	ユズ
2	西川町（山形県）	84	17.6%	そば
3	多賀町（滋賀県）	76	15.9%	そば
4	北中城村（沖縄県）	6	12.6%	ハンダマ、バナナ
5	雄武町（北海道）	1103	11.0%	飼料作物、だったんそば
6	様似町（北海道）	105	10.2%	飼料作物
7	尾鷲市（三重県）	7	10.2%	甘夏
8	大蔵村（山形県）	122	10.0%	そば
9	小川町（埼玉県）	58	9.4%	水稻、麦類、豆類、キャベツ、ニンジン、ダイコン、キュウリ、ナス
10	綾町（宮崎県）	63	9.3%	水稻、麦類、豆類、かんしょ、ニンジン、ダイコン、ブルーベリー、ブドウ、日向夏、飼料作物
11	大野市（福井県）	369	8.8%	水稻、そば
12	江津市（島根県）	53	8.8%	桑、ホウレンソウ、ゴボウ、豆類、水稻、麦類、葉菜類
13	川根本町（静岡県）	44	8.7%	茶
14	湯前町（熊本県）	48	8.6%	水稻、麦類、タマネギ、飼料作物
15	小坂町（秋田県）	72	8.5%	豆類

	市町村	有機農業の取 組面積 (ha)	耕地面積に 占める割合	主に作付けされている 品目
16	基山町（佐賀県）	23	8.3%	水稻、イモ類、レンコン、ショウガ
17	越前市（福井県）	276	7.7%	水稻、麦類、豆類、キュウリ、ニンジン、キャベツ、そば
18	滝上町（北海道）	280	7.7%	飼料作物
19	戸沢村（山形県）	104	7.1%	水稻、パプリカ
20	鬼北町（愛媛県）	69	6.8%	ユズ、ばれいしょ、かんしょ、ニンジン
21	興部町（北海道）	410	6.5%	飼料作物
22	豊岡市（兵庫県）	313	6.4%	水稻、大豆、そば、小麦、ニンジン
23	津別町（北海道）	364	6.4%	豆類、ばれいしょ、タマネギ、カボチャ、飼料作物
24	西原町（沖縄県）	7	5.9%	オクラ、インゲン
25	吉賀町（島根県）	50	5.7%	水稻、非結球レタス、トウモロコシ、ピーマン、麦類、豆類
26	赤村（福岡県）	21	5.5%	水稻、セロリ、トマト、ミニトマト
27	南越前町（福井県）	53	5.1%	水稻、そば
28	湧水町（鹿児島県）	86	5.1%	水稻、ニンジン、かんしょ、ばれいしょ、ホウレンソウ、ダイコン、茶
29	南知多町（愛知県）	37	5.0%	豆類、ダイコン、タマネギ、ハーブ
30	赤井川村（北海道）	39	4.9%	アスパラガス、ばれいしょ

有機農業の取組面積が大きい市町村

※令和6年度に実施した「令和5年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」において、一定程度、有機農業の取組面積を把握していると回答した960市町村のうち、公表について「可」との回答があった市町村のみを掲載。

	市町村	有機農業の 取組面積 (ha)	耕地面積に 占める割合	主に作付けされている 品目
1	雄武町（北海道）	1103	11.0%	飼料作物、だったんそば
2	標茶町（北海道）	508	1.8%	飼料作物
3	興部町（北海道）	410	6.5%	飼料作物
4	大野市（福井県）	369	8.8%	水稻、そば
5	津別町（北海道）	364	6.4%	豆類、ばれいしょ、タマネギ、カボチャ、飼料作物
6	浜中町（北海道）	336	2.3%	飼料作物
7	豊岡市（兵庫県）	313	6.4%	水稻、大豆、そば、小麦、ニンジン
8	大潟村（秋田県）	298	2.6%	水稻、麦類、豆類、カボチャ、ニンニク、大豆
9	枝幸町（北海道）	290	2.7%	飼料作物
10	滝上町（北海道）	280	7.7%	飼料作物
11	中標津町（北海道）	278	1.1%	飼料作物
12	越前市（福井県）	276	7.7%	水稻、麦類、豆類、キュウリ、ニンジン、キャベツ、そば
13	南九州市（鹿児島県）	232	2.6%	茶、野菜、水稻、大麦若葉
14	釧路市（北海道）	223	2.1%	飼料作物
15	美瑛町（北海道）	209	1.7%	水稻、麦類、豆類、ばれいしょ、カボチャ、そば

	市町村	有機農業の取 組面積 (ha)	耕地面積に 占める割合	主に作付けされている 品目
16	せたな町（北海道）	204	3.5%	水稻、麦類、豆類、ミニトマト、アスパラガス、ブルーベリー、そば、飼料作物
17	菊池市（熊本県）	203	3.5%	水稻、麦類
18	丹波市（兵庫県）	197	3.6%	水稻、豆類、ニンジン、黒枝豆、ブルーベリー、茶、麦類、黒ごま
19	剣淵町（北海道）	177	2.7%	豆類、ばれいしょ（食用、加工）、カボチャ、タマネギ、そば、雑穀
20	志布志市（鹿児島県）	173	2.8%	水稻、ピーマン、茶
21	山都町（熊本県）	164	3.4%	水稻、豆類、ニンジン、ばれいしょ、ペビーリーフ、ユズ、ブルーベリー、栗、茶、そば、飼料作物
22	登米市（宮城県）	149	0.8%	水稻、麦類、豆類、ばれいしょ、なばな、ホウレンソウ
23	天塩町（北海道）	144	1.4%	飼料作物
24	中泊町（青森県）	143	3.9%	水稻、豆類、ダイコン、ニンニク、トマト、ブドウ
25	福井市（福井県）	126	1.6%	水稻、そば
26	一関市（岩手県）	123	0.7%	水稻、麦類、豆類、ニンジン、ホウレンソウ、ばれいしょ
27	大蔵村（山形県）	122	10.0%	そば
28	大田原市（栃木県）	109	1.0%	水稻、麦類、豆類、レンコン、ばれいしょ、葉野菜、梅、ブルーベリー、そば、菜種
29	あわら市（福井県）	108	3.2%	水稻、そば
30	新庄市（山形県）	107	2.0%	水稻、豆類、かんしょ、ニンジン、トウモロコシ、リンゴ、そば、飼料作物

有機農業推進の取組事例集

各地の取組事例を農林水産省ホームページに掲載

オーガニック ビレッジ

全国90の市町村の
オーガニックビレッジの取組を掲載

【掲載項目】

- ・主な品目
- ・課題（拡大をはばむ雑草等）
- ・実施体制
- ・取組の成果（導入技術等）
- ・面積情報
- ・主な取組内容のポイント
- ・成果目標

産地 づくり

有機農業の産地づくりの基本
となる考え方や進め方を記載

【掲載内容】

- ・有機農業の産地づくりの考え方
- ・生産、加工・流通、消費の各分野
ごとの進め方及び取組
- ・Q&A

輸出

有機農畜産物・有機加工食品の輸出に
向け、有機 JAS認証の取得や輸出向け
の商談会・展示会への出展等を支援



○令和5年度オーガニックビレッジ取組事例集

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html



○有機農業の地域づくりのヒント

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/attach/pdf/organic_village-100.pdf



(オーガニックビレッジのページ)

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html

